

5 | 3 1 | 0

(包紙)

「文政元年寅年於鳥府

御船大将香川次郎右衛門様より

御隠居様へ差上被成候頭書并ニ

御家老新八郎^江次郎右衛門より御状写」

5 | 3 1 | 1

(折紙) 上段

尚々深浦御役所^江呼出し申渡させ

候義旧例之通り□、其御屋敷□□□

米子表^{ニ而}定^而表向^ニ被仰渡候義^与

奉存候、此段得御意置候、以上

今日^者不輕寒風相成候得共

弥御安康被成御勤□と奉存候

誠^ニ此間之御内書早々可及御

答之所被仰下候趣尤

御隠居様よりも厚御内談

被為成、何卒兩人引塩丈ケ

相考呉候様御内沙汰候故

役所段々取調へ間取り追々

今朝存寄書認メ御屋敷^ニ

罷出御隠居様へ御直^ニ

相窺候所被成御承知候^ニ付

貴兄御尋申候得共未

御出勤間も可有御座^与申事故

心外相仕廻、右御左右^{（出紙）}■答

旁如斯御座候内存書付^ニて

上置候^ニ付御覧可被成候

干鰯改メ役共壱人入用^ニ

候得共新九郎共家筋之者

難申付乍去相望ミ候ハ、

(折紙) 下段

深浦御役所承り申越候様

何分深浦詰候て具ニ遣し
此度兩人共当役用達し
申付させ心得申渡浜方も
差出し可然義_者致差図候様
彼等_ニも御為筋之儀_者
深浦詰石田正藏_江申遣し
正藏より申越候義も御座候ハ、
其年御役人より_与申趣_ニ相成り
作法通と御座候ハ、申達し
安キ事_ニ付近々深浦
考等心得も申遣候と申_ニ付
左様御承知被下、当時此_余_ニ
私力叶不申候、御勘弁可被下候
扱々兩人之者共気毒存候得共
余り物事火急_ニ不致様心得
被仰聞置可然哉_ニ奉存候
具ハ対面ならてハ難_与尽
急キ乱筆御免乍未御同性様へも
宜敷頼上候、以上

十月十七日

次郎右衛門

新八郎様

へ

極内答